

文学部教職課程

准教授 今井 航
講師 牧 貴愛

1 アンケートの実施目的

教育実習を終えた教職課程履修者に対して、平成25年11月29日(金)に事後の実習指導が行われた。その際、アンケートを実施した。本アンケートは、平成19年度から実施しており、今回で7回目となる。

教育実習の内容はどうであったか。また、実習を終えてどのような変化があったか。今回も、彼らが自らのように評価しているのかを答えてもらった。

2 方法

当日は、44名の履修者が対象となった。アンケートの内容は、大きく分けて教育実習に関する評価と自己評価の2点であった。いずれも、5段階評価を採用した。5段階は、以下のように設定した。

5 強くそう思う 4 そう思う 3 どちらともいえない 2 そう思わない 1 全くそう思わない

上記1から5までのうち、1つだけ該当する数字を選び、これに○印を付けてもらった。また、その他として主に公立学校教員採用選考試験に関する事項を調査した。さらに、教職課程への要望を自由に記述してもらった。以下の通りである。

I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。	5	4	3	2	1
②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。	5	4	3	2	1
③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。	5	4	3	2	1
④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。	5	4	3	2	1
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。	5	4	3	2	1

II. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。	5	4	3	2	1
②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。	5	4	3	2	1
③大学卒業後は、教職関係(公/私立の臨時的任用教員、塾講師など)に就職したい。	5	4	3	2	1
④大学を卒業してから、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりである。	5	4	3	2	1

III. その他 (YesかNoのどちらかに○印を付けてください)

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。	Yes	•	No
②あなたは、今年度の公立学校教員採用選考試験を受けましたか。	Yes	•	No
③今年の2月に【教職教養】受験対策講座があったことを知っていますか。	Yes	•	No
④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。	Yes	•	No

上記Ⅲ. ②でYesと回答された方は、受験した都道府県名、或いは都市名を下のカッコ内に全て記して下さい。
()

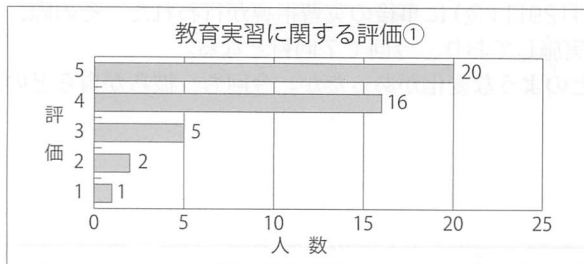
IV. 教職課程への要望 (下の空欄に、実習の事前・事後の指導や講義・演習のことなど自由に書いてください)

3 アンケート結果

それでは、項目ごとに結果をみてみよう。

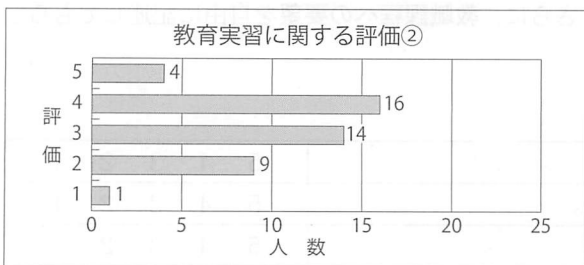
I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。



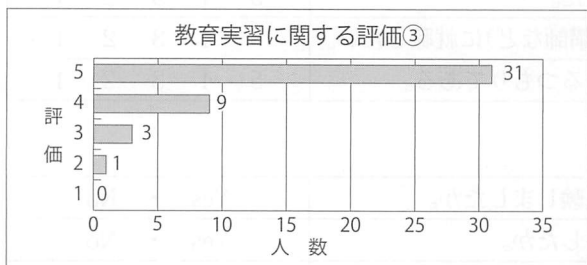
36名（82%）が十分に教材研究を行い、授業にのぞんだとしている。

②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。



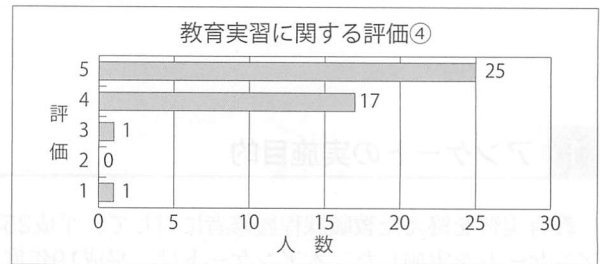
学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができたとする者は20名（45%）である反面、24名（55%）がどちらともいえない、あるいは思い通りにはいかなかったとしている。

③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。



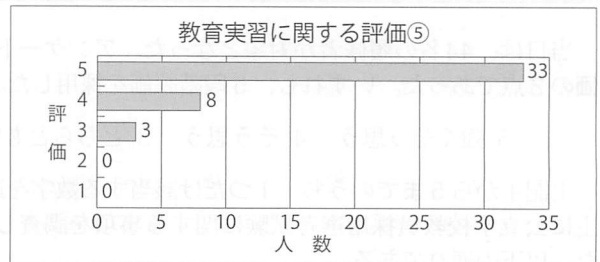
40名（91%）が熱意をもって、教育実習に取り組んだとしている。

④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。



42名（95%）が積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかったとしている。

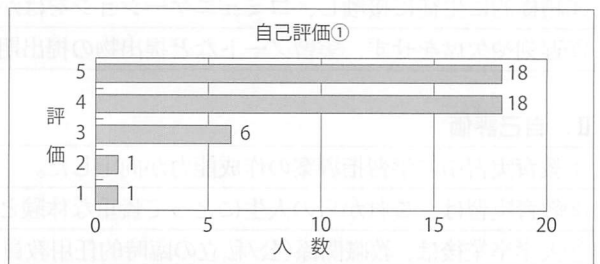
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。



41名（93%）が遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守ったとしている。また、そうではなかったとする回答は見られない。

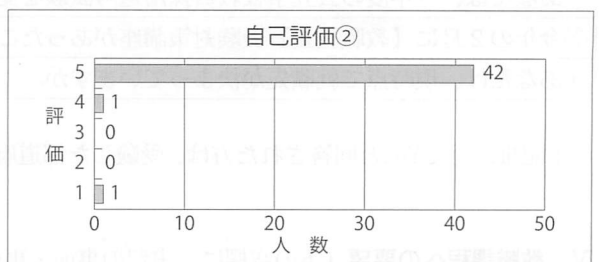
II. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。



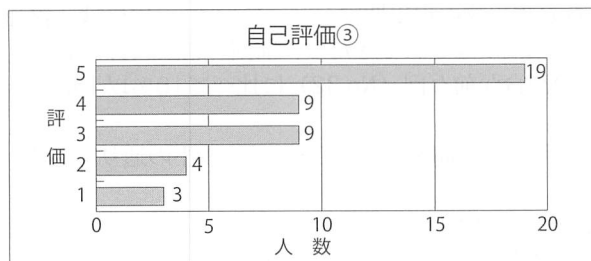
36名（82%）が教育実習中に学習指導案の作成能力が向上したとしている。

②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。



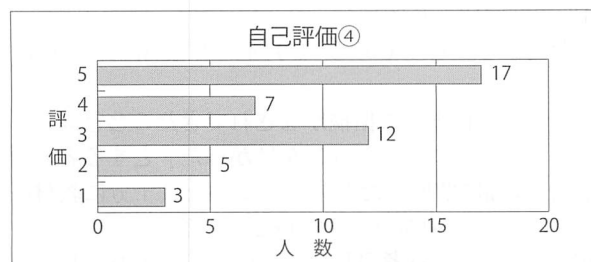
43名（98%）が教育実習はこれからの人生にとって貴重な体験となったとしている。

③大学卒業後は、教職関係に就職したい。



大学卒業後は、教職関係に就職したいとする者は、28名（64%）である。

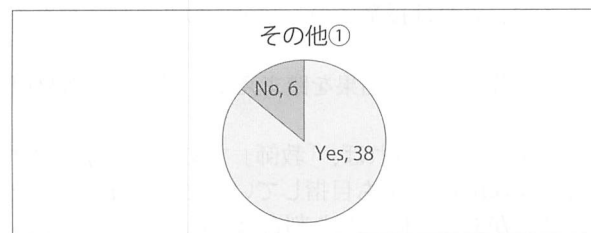
④大学を卒業してから、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりである。



大学を卒業してからも、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりのは、24名（55%）である。

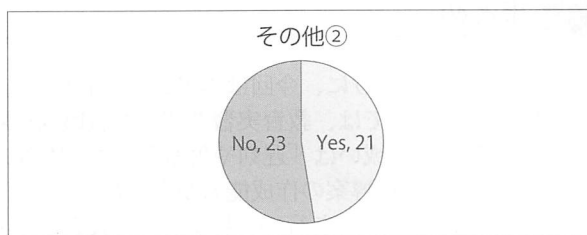
Ⅲ. その他

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。



授業実践を一度でも経験してから教育実習に行った者は、38名（86%）である。

②あなたは、今年度の公立学校教員採用選考試験を受けましたか。

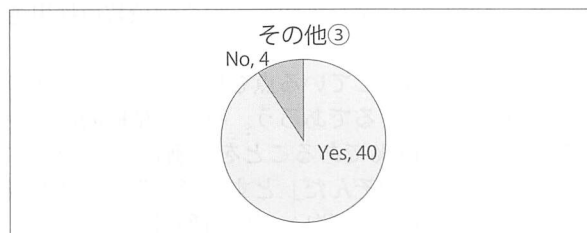


今年度の公立学校教員採用選考試験を受けた者は、21名（48%）である。

また、受験地の内訳(延べ27)は、以下の通りである。

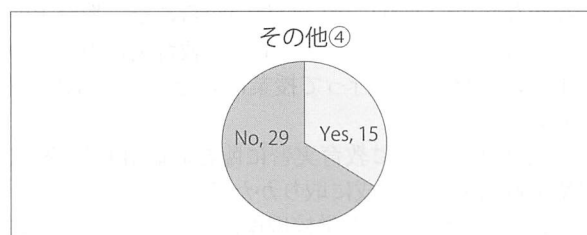
福岡県	大分県	宮崎県	佐賀県	長崎県	熊本県
4名	5名	2名	1名	1名	3名
鹿児島県	東京都	神奈川県	広島県	高知県	北海道
2名	4名	2名	1名	1名	1名

③今年の2月に【教職教養】受験対策講座があったことを知っていますか。



今年の2月に【教職教養】受験対策講座があったことを知っていた者は、40名（91%）である。

④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。



平成25年11月29日（金）の時点で就職先が決まっている者は、15名（34%）である。

Ⅳ. 教職課程への要望

例年に比べて、未記入の者が多かった。記入者は、国際言語・文化学科の学生が1名、史学・文化財学科が1名、食物栄養学科が1名、国際経営学科が3名の計6名であった。「事前の指導での講演が自身の課題を見つける機会になった」と評価する記述が見られた反面、『教育実習日誌』を書くことが困難であったことをほのめかす記述や、『履修カルテファイル』を作成する意味がよく分からなかったと吐露する記述なども見られた。

4 まとめ

冒頭でも述べたように、今回は本アンケートを実施し始めてから7回目となる。これまでの結果報告（本冊子 No.31～33参照）では、教育実習を終えた教職課程履修者について「熱意をもって授業にのぞみ、積極的に生徒に接している」、或いは「遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守っている」、更には「教育実習を通して学習指導案の作成能力が向上している」といった指摘がなされてきたし、前回の結果報告（No.33）では、「十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ」とする者の割合が前々回（No.32）に比べて10%以上増加したことも指摘された。

今回の結果は果たしてどうであったか。特徴を見るため、項目ごとに前回と比べてみよう。以下の通りである。

- I-①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。（今回82%で前回比-2%）
- I-②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。（今回45%で前回比-6%）
- I-③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。（今回91%で前回比-6%）
- I-④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。（今回95%で前回比+11%）
- I-⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。（今回93%で前回比+5%）
- II-①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。（今回82%で前回比+1%）
- II-②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。（今回98%で前回比-2%）
- II-③大学卒業後は、教職関係に就職したい。（今回64%で前回比+6%）
- II-④大学を卒業してから、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりである。（今回55%で前回比+7%）

前回に比べて減少している点も見られるが、今回の結果からも、これまでに指摘がなされてきたことと同じように言うことができるであろう。特に「積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった」とする者の割合が前回比で+11%であることを評価したい。加えて、前回、大幅に増加したと見られていた「十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ」とする者の割合も2%減少したとは言え、80%以上を維持している。

一方、「学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた」とする者の割合は、前回は7%減少していたが、更に今回も減少が見られ、前回比-6%である。言い換えれば、思い通りに授業をすることができなかった者が増えている。その反面、教育実習中に学習指導案の作成能力が向上したとする者も多い。これは、II-①で示されているように、前回比+1%で、82%である。つまり、教育実習を「学習指導案の作成能力は向上したが、思い通りに授業をすることはできなかった」と振り返っている者が多いと言える。

なかなか思い通りにはいかないからこそ、教育実習に臨む前から学習指導案の作成能力を高めておく必要があるのではないだろうか。その上で、教育実習中にその能力をより向上させて欲しい。更に言えば、先に見たように十分に教材研究を行って授業にのぞんだ者は80%程度であるが、これは授業にのぞむ全ての者が行うべきことである。

平成26年度以降に教育実習に臨む教職課程履修者は、こうした先輩たちの結果を踏まえて、早めから教材研究や学習指導案の作成に取りかかるとよい。

「大学生」といっても学校現場にひとたび入ったら生徒やその保護者からみれば、「教師」である。十分な教材研究や学習指導案の作成能力の向上はもちろんのこと、授業自体の質的な向上も目指していきたい。III-①で教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験したことがあると回答した割合は、前回比+8%で、86%である。増加してはいるが、100%には達していない。本学では、教職課程履修者全員が授業実践をしてから教育実習に臨むことを強く勧めている。「教師」になることを自覚し、授業自体の質的な向上を目指して前もって授業実践しておくべきである。

また、III-②で示されているように、公立学校教員採用選考試験を受験した者が48%と半数近い。本来は、教職課程履修者全員が受験すべきであろう。受験してこそ、教員としての資質・能力を問うことができるし、自らの立ち位置と進むべき道が明らかになるであろう。受験に向けては、【教職教養】受験対策講座（2月開催）を活用してもらいたい。

これからも、本学教職課程履修者の要望にひとつひとつ応えていくつもりである。本学から一人でも多くの優れた教師を輩出していきたい。